

古代文字ダンス(古代文字之舞) 【手の巻】解説



立命館大学 白川静記念
東洋文字文化研究所

立命館大学白川静記念
東洋文字文化研究所

1. はじめに

「古代文字ダンス（古代文字之舞）」は、漢字の成り立ちやつながりについて、ダンスを通して「体感」していただくことを目的として制作しました。

漢字の学習は、繰り返し書いて覚える方法だけでなく、その原理を理解することが大切です。漢字の世界は、語源（成り立ち）と系統（つながり）があり、いろいろな漢字が密接に結びついています。

動画には、「見てみよう（鑑賞版）」と「やってみよう（実践版）」があります。そのうち、「やってみよう」では、衣装は簡素なものを着用し、踊り手の動きが分かるようにしてあります。この動画を見ながら動きをまねてみましょう。

2. ダンスの流れ

「手の巻」では、次の漢字の成り立ちをテーマにしています。

①手 ②看 ③発 ④射 ⑤至 ⑥持 ⑦争 ⑧具 ⑨受 ⑩友

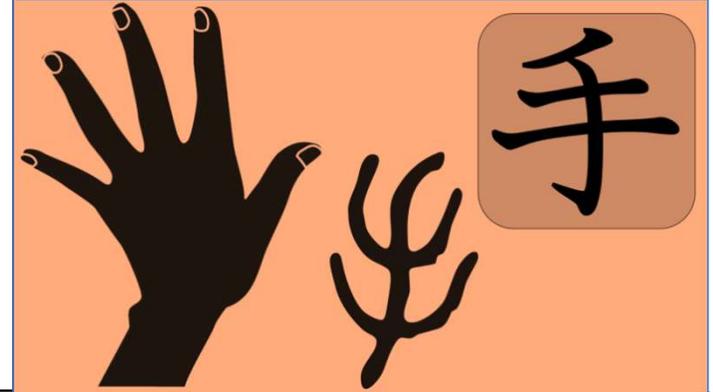
一つの漢字について、「ダンス→となえことば」で構成されています。「となえことば」は、漢字の成り立ちを簡単な文で覚えやすくまとめたものです。

ダンスは、もちろんうまくできることに越したことはありませんが、ダンスの動きを通して漢字の成り立ちとつながりを「体感」することが目的です。まずは、気に入った部分や自分にできそうな部分から始めていき、だんだんとつないでいきましょう。

つぎに、それぞれの漢字の成り立ちを解説します。

①手

五本指 ぱっとひらいた 手の形



大きく開いた手の形です。手の形からできた漢字はたくさん有り、「扌、爪、又、ナ、ヨ、卩」など、様々な形に変化しています。

②看

目の上に片手をかざしてよくみる看



「看」の古代文字は「睎」で、「手」と「目」との組み合わせです。目の上に手をかざしている様子で、物事をよく見ることを表します。

③ 発

踏ん張って 弓射る いくさの合図が発



「発」は、もとは「發」と書きました。古代文字は「𠂔」で、「𠂔」と「弓」と「𠂔」との組み合わせです。

「𠂔」は足の形である「止」を左右逆にして二つ並べた形で、**両足**の意味。「弓」は**武器の弓**の形、そして「𠂔」は、手(又)にやりのような武器である**「ほこ」**を持っている形です。**両足を踏ん張り、鎗矢(かぶらや：戦いの合図となる音の出る矢)を放つ**まで、そこから「発生、出発」のような「はじまる、たつ、おこる」という意味を表すようになりました。

④射

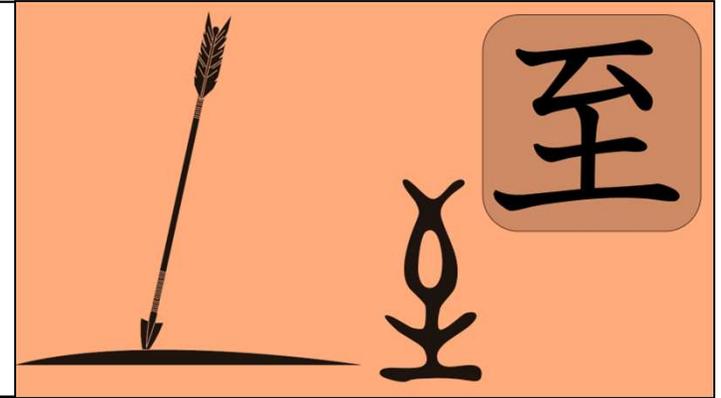
矢をつがえ 的に向かって 弓を射る



「射」の古代文字は「𠄎」で、「身」と「寸」との組み合わせです。本当は手(寸)で弓矢を引いている形ですが、左側の部分の、おなかに子どもがいる女性の形を表す「身」の古代文字「𠄎」に似ていたもので、後に誤って「身」と書かれるようになりました。

⑤ 至

矢を放ち 至ったところを あらわす至



「至」の古代文字は「」です。上の部分は「」をひっくり返した形です。矢を放ち、**矢が地面に刺さった様子**を表し、物事が「いたる、つく」ことを表します。

⑥持

もともとは 持つ意味だった 寺の文字



「持」は「手」と「寺」との組み合わせです。「寺」の古代文字は「𠂔」で、この字は「之(足あとの形)」と「寸(手の形)」とのくね合わせです。そして元々は「寺」が「もつ」という意味を表す字でした。

「寺」は「もつ→役所→外国の使節が滞在するところ→僧侶が滞在するところ(てら)」と意味が変わっていきました。そして本来の「もつ」意味を表すために、「てへん」をつけて「持」の字を作りました。

⑦争

棒を手で 引っぱり合って 争うよ



「争」は、もとは「𠄎」と書き、古代文字は「𠄎」で、「爪」と「又」と「丨」の組み合わせです。「爪𠄎」と「又𠄎」はどちらも手の形で、二人が一本の棒のようなものを引っ張りあっている様子で「あらそう」ことを表します。

⑧ 具

具の文字は うつわをささげて 持つ形



「具」の古代文字は「𠄎」で、元々は「鼎」と「卪」の組み合わせです。上部の「目」は「鼎」の字を略した形で、「鼎𠄎」は神をまつる時にお供え物を入れる器である「かなえ」の形です。「卪」は両手の形です。両手でかなえをささげ持つ様子で、「そなえる、そなえるもの」という意味を表します。

⑨ 受

手から手へ 入れ物に入れて 受けわたす



「受」の古代文字は「𠄎」で、「爪」と「又」と「一」の組み合わせです。「争」が、二人が一本の棒のようなものを引っ張りあっている様子で「あらしう」ことを表すのに対し、「受」は手から手へ皿のような物を受け渡すことを表します。後に「あげる、さずける」ことは、「てへん」を付けて「授」の字を新たに作りました。

⑩ 友

手をにぎり 手と手を重ね 友となる



「友」の古代文字は「𠂔」です。「ナ」も「又」も手の形で、二本の手が重なり合っている様子です。握手しているところ、または手と手を重ねて誓いを立てているところです。そこから「とも、なかま」を表す字になりました。

詳しくは

『立命館大学 白川静記念東洋文字文化
研究所ホームページ』をご覧ください。



[http://www.ritsumei.ac.jp/
acd/re/k-rsc/sio/](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/sio/)

ホームページQRコード

